

企業名： 高砂熱学工業

レポート名： 高砂熱学工業 コーポレートレポートについての考察

1. この会社が目指す姿が理解できるか

「人が住む環境のための空調技術」と「地球環境に貢献する環境技術」を創造する企業を意味する造語『環境クリエイター』をスローガンに掲げて、人々が快適に暮らせるような空調システム作りで貢献するだけでなく、気候変動問題の解決や脱炭素社会に貢献する企業を目指していることが分かる。このために高度に清浄度、温湿度が管理された生産環境を用意するとともに、ESG 推進委員会を立ち上げて SDGs などに関する取り組みを会社一丸となって取り組んでいる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

高砂熱学工業の競争優位性は空調設備業界では創業約 100 年の歴史に加えダイキンに次ぐ第 2 位のシェアを持っており、高い評価を受けてきたことにあるだろう。ダイキンという圧倒的なリーダーとともにうまく共存している共生的チャレンジャーの地位をうまく確保している。また現代的な問題である「環境にやさしい」製品づくりにもいち早く取り組んでおり今後の需要拡大にも対応でき、この点も優位性と言えるだろう。

さらに新型コロナの流行により多くの人が換気や給気に関心を持ちはじめており、空調に関し高い技術を持っている高砂熱学工業にとっては追い風と言えるだろう。加えて高砂熱学工業は同業他社の中でも海外進出に熱心であり、海外市場拡大や経営の安定化(リスク分散や多様な収益確保)に取り組んでいるためこの点も優位性になる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

シェア 2 位や長い歴史からくる市場からの高い評価はそう簡単に覆ることはないだろう。実際に 2017 年に社員の平均的なスケジュールと公表したものの、そのスケジュールが悪質な労働環境だとされて炎上したことがあったがその後特段企業評価が落ちたことはない。このように大きな技術的な欠陥などが見つからない限り信頼は失われまいだろう。同時にダイキンからシェア 1 位を奪えるほどの画期的な案もないのも事実であり共生的チャレンジャーの地位は今後も維持されるだろう。

また環境問題も現在多くの注目を集めている問題であり、新たな研究が進むなどして今後も注目度は上がっていくことが予測できるため環境問題にいち早く順応したという強みも維持されるだろう。

しかしコロナ拡大をきっかけとした人々の換気への関心や積極的な海外市場拡大による優位性は今後今ほどの優位性が持続されないと考える。というのも前者のピークはコロナウイルスが蔓延したときであり、コロナ後を見据え始めている今では以前ほどの関心は見

込めなく、後者はコロナ渦を経て利益分散の重要性を感じた同業他社が今後は積極的に海外進出することが見込まれるからだ。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

大学など経営を学ぶ際には利益や売り上げを高めることに重点が置かれるが、高砂熱学工業は売り上げなどと同様環境問題に取り組んでいるため利益一辺倒にならない現代的なバランスの取れた姿勢を学べるだろう。また同社は今までに培ってきた「環境にやさしい技術」を用いて環境事業への取り組みを始めている。具体的には技術の実用化や新たな不動産スタイルの確立であるが、これらは世間的にみても新しい事業であるため世の中のニーズと自社の事業に結ぶつける稀有な経験になり、多くの人はその経験ができず自身の価値向上につながるだろう。

また高砂熱学工業は国際事業にも力を入れており入社したならば出張などを通じて海外支社とのかかわりもできるだろう。すると自国だけでなく世界全体を踏まえた国際的な視点を持てるようになるだろう。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

環境問題に取り組むその成果や今後の展望をまとめているのは非常に望ましいことなのだが、貢献や理想のニュアンスが強く、株式会社として利益を上げ株主に還元するという根本がおろそかになっているように感じる。というのも産業設備工事に積極的であり売上は上がっているものの、利益率はあまり向上していない上、圧倒的シェア 1 位のダイキンの牙城を崩せていないためだ。また社外からの分析がアナリスト二人のメッセージしかなく、より客観的なレポートを目指すには彼らの財務分析だけでなく環境問題の識者などによる賛否含めたより多様な分析を示す必要があるだろう。

これらの点を除いては写真や図、色の配分を効果的に用いて視覚的にもわかりやすい報告書となっておりさらに外部化からの視点、成果や今後の目標など必要な要素は記載されているため十分良い報告書と言えるだろう。

6. 参考文献

日経 ESG 未来戦略インタビュー 高砂熱学工業・小島和人社長

[100周年に環境クリエイターへ | 日経 ESG \(nikkeibp.co.jp\)](https://www.nikkeibp.co.jp) (最終閲覧 7月 17日)